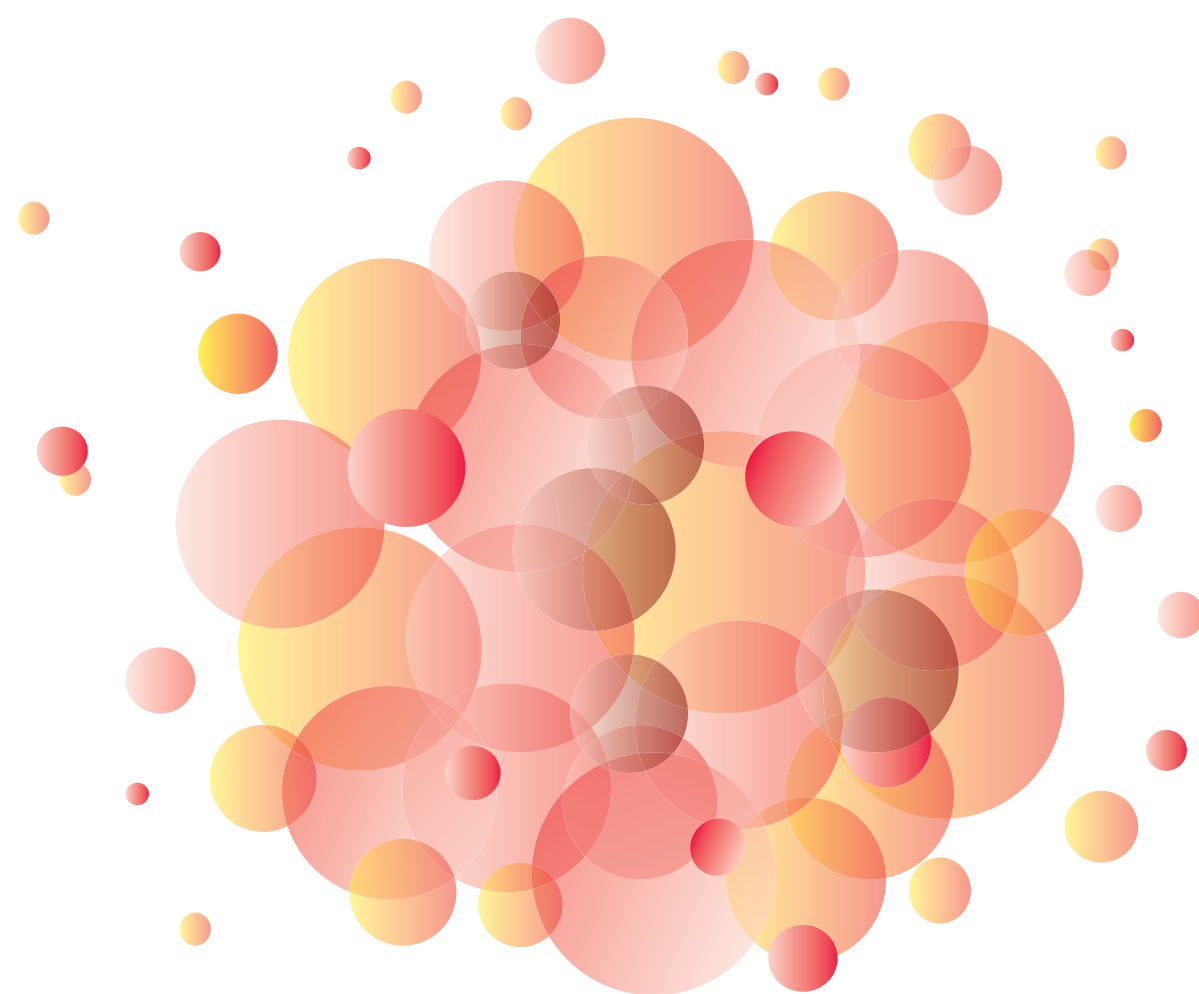


Annual Report 2022



あなたと一緒に、新しい「支援」のカタチを創造。

一般社団法人 グラミン日本
第6期 事業報告書



GRAMEEN
NIPPON

より早く、より確実に、
より遠くまで、支援を届けたい。
そのために私たちは、全国の自治体、
企業、支援団体のみなさまとつながります。

contents

- 3 理事対談・違いがあるから「価値」が生まれる
- 5 グラミン日本を知る
- 7 ハイライト2021-2022
- 9 支援モデルと実績
- 11 メンバーの声「彼女たちのストーリー」
- 15 パートナーシップ
- 17 共創事例 企業インタビュー
- 21 財務会計報告・団体概要

パートナーとともに より良い未来を。

2018年に始まったグラミン日本の挑戦は、着実に実を結びつつあります。一方で、シングルマザーをはじめとする生活困窮者を取り巻く環境は、厳しさを増しています。企業、自治体、他の支援団体、そして個人サポーターのみなさまと連携することにより、私たちだけの力では届かないところにまで支援を行き渡らせる。そのためにグラミン日本は、これまで以上にパートナーシップを強化してまいります。

グラミン日本の活動は、みなさまのご協力によって支えられています。引き続きのご支援を、よろしくお願いいたします。



グラミン日本 理事長
百野 公裕



違いがあるから、価値が生まれる

多様なメンバーが同じ目標に向かって活動するグラミン日本。企業や自治体との連携においても、異なる視点や強みがあわさることによって価値が生まれています。対照的なバックボーンを持つグラミン日本の2人の理事が、違いを認め、受容しあう意義を語りあいました。



中川理恵（以下、中川）：高橋さんと私は、女性であること、グラミン日本の理事であることは一緒ですが、これまでのキャリアもグラミンでの役割もまるで違う。だからこそお話ししていると色々な発見があるので、今日は楽しみにしてきました。

高橋歌織（以下、高橋）：ありがとうございます。私は、専業主婦からシングルマザーになり、自身の経験も活かしてシングルマザーの自立支援に携わってきました。企業人として活躍して責任ある立場にあった中川さんは、なぜグラミン日本に参加されたのですか。

中川：子どもの未来を創る仕事をしたいとずっと思っていたんです。せっかくなら自分の強みが活きるかたちで支援に携わりたいと探していたところ、グラミン日本が人材を募集していると知って参画しました。

高橋：そして現在はビジネス経験をフルに活用して、外部との連携を主導しているのですから、グラミンにとっても中川さんにとってもハッピーな出会いでしたね。私は立ち上げ時から、女性支援という同じ志を掲げる団体としてグラミン日本に注目してきました。ただ、起業を前提としたマイクロファイナンスの仕組みが日本でうまく行くのか気がかりで、応援しているうちに「中の人」になってしまいました（笑）。現在

はシングルマザーの支援や、そのための人材育成などを担当しています。

誰もが秘める可能性

中川：確かにバングラデシュのグラミン銀行は起業のための資金の融資から始まりましたが、起業にあまりなじみのない日本では事情が少し異なりますよね。グラミン日本に関心を寄せてくださる女性は、まずは就職したりフリーランスとして働きたいという方が少なくなかった。今はマイクロファイナンスだけではなく、デジタルスキル教育を通じた就労支援や就労準備のための融資がとても有効なアプローチですね。

高橋：グラミン日本では支援する方にはまずワークショップ（「ミライ Workshop」）に参加していただきますが、このメソッドこそ私たちの最大の特徴であり、女性たちが新しい一歩を踏み出すために欠かせないものだと思っています。「ミライ Workshop」では、それまでの歩みや気持ちを振り返り、人生で本当に実現したいことは何かを明らかにします。そのうえで起業や就労に必要なことを整理して、具体的な計画に落とし込んでいく。このすべての過程にグラミン日本のスタッフが寄り添うことで、不安な気持ちが先

行して動き出せなかったシングルマザーたちが、回を重ねるごとに前向きになっていきます。

中川：そう！ 短い間にこれほど変われるのかと、人が持つ潜在的な可能性の大きさに私はいつも驚かされているんです。グラミン独自のメソッドといえば、やはり5人一組の互助グループの力が大きいですね。同じような苦難を理解し合える仲間たちと、悩みや夢を共有して支えあい、時には刺激しあいながら同じ目標に向かって進んでいく。一人の力では決してたどり着けないところまで到達できるのだと思います。

協働のダイナミズム

高橋：同じことがグラミン日本の運営にも当てはまりませんか？ 私たちだけでできることは限られますが、企業や自治体、他の支援団体のみなさんと協働することで、それぞれの強みが何倍もの力となり、足りない部分は補完しあいながら、より多くの女性を後押しできるようになっていく。特に最近の中川さんを中心に外部との連携に注力していることで、着実に広がっている感じがします。

中川：おかげさまでこの1年は多くの方々との連携が実現しました。2022年はJANPIA（一般社団法人日本民間公益活動連携機構）の資金分配団体に初めて採択されましたし、愛媛県や鹿児島市などの自治体との連携で地方へ活動の幅を広げることができました。前例にとらわれず、できることは何でもやって地域の課題を解決したいという情熱あふれる自治体職員の方々にもお会いしました。都市部との賃金格差に加えて、女性活躍の機会の少なさを痛感されているみなさんからは、「地域の女性たちを支援したい、しなければならぬ」という強い使命感が伝わってきます。**高橋：**大切なのは集まった女性たちに「ここに助けを求めてよかった」と思ってもらうこと、そして彼女たちのリスタートを現に後押しすることですね。自治体の方々も支援の現場に積極的に入ってこられていて、その真摯な思いに私たちグラミン日本も突き動かされています。これぞまさに協働のダイナミズム！

企業が社会課題に向きあうべき真の理由

中川：一方で、企業にもこれらの社会課題を解決する重要な役割があると思っています。私たちがいつも企業に期待しているのは「雇用の創出」。それも一時的なものではなく、継続的に収入が見込める仕事の機会

を創っていただきたいということ。シングルマザーたちにとって起業やフリーランスという選択のほかに、企業に雇用されて安定的な給与収入を得ることも、グラミン日本が考える経済的自立手法の一つです。

日本はこれからますます労働生産人口が減ってくるので、DX化による生産性向上は待ったなしの状態ですが、その担い手となるIT人材が圧倒的に不足していますよね。一方で中小企業を中心に、手つかずのまま放置されている事務処理業務がまだまだたくさんあるのも事実。非IT人材のIT人材化が進めば、日本社会全体でデジタル化が進んで、そこに時間を費やしていた一般社員たちが、より付加価値の高い業務に労働移動できるようになる。そうすれば企業はもっとお客様や社会に喜ばれるサービスや製品を生み出しやすくなるはず。

この好循環が生まれる社会デザインの一躍を担うことを目指して、グラミン日本ではこれからも非IT人材の女性たちにデジタル教育を提供し、稼ぐ力が持てるよう支援を強化していきたいと思っています。

高橋：企業のなかで多様な人材、多様な働き方を取り入れることも重要ですね。グラミン日本を通じてシングルマザーを雇用したある企業の方から、まわりの社員の意識や働き方に変化があったと聞きました。子育てや時間の制約があるなかで最大限効率的に仕事する姿に刺激を受けたそうです。今後は家族の介護など、さまざまな制約を余儀なくされる社員が確実に増えと予想されるので、シングルマザーを職場に迎えてその力を最大限に引き出すことは、多様な人材が働く職場をつくるための試金石になると思います。

中川：違いがあるからこそ大きな価値が生まれる可能性があるのは、高橋さんと私、そしてほかのグラミン日本のスタッフも同じかもしれませんね。設立から6年目を迎えて、ご支援くださる企業や団体のみなさま、個人の寄付者の方々も増えてきています。みなさまの信頼にお応えできるよう、着実に成果を出していきたいですね！

中川理恵：25年以上製造業にて商品開発、生産調達、コールセンター、サステナビリティに従事。2020年10月からグラミン日本に個人プロボノとして参画。22年12月で株式会社ミスミグループ本社を退職し、グラミン日本の活動に専念。

高橋歌織：大手生命保険会社に14年勤務。専業主婦になり出産後、離婚し、シングルマザー支援・女性活躍支援の現場で、当事者目線の自立サポートに携わりながら、研修・企業へのコンサルを実施。2017年10月よりグラミン日本に参画。

グラミン日本を知る

誰もがいきいきと活躍する持続可能な社会に向けて 私たちは、歩み続けます。

グラミン日本とは

先進国には貧困国とは異なる「相対的貧困」の問題があります。日本の相対的貧困率は G 7 のなかで米国に続いて 2 番目に高い水準にあり、特にシングルマザーや非正規労働の女性たちなどが経済的に厳しい状況に置かれています。

グラミン銀行の日本版として 2018 年に設立されたグラミン日本は、バングラデシュをはじめ世界各国で蓄積されたマイクロファイナンス事業の知見を活かし、豊かな国にふさわしいアプローチで日本の貧困問題を解決するために挑戦を続けています。



GRAMEEN

MISSION 組織の使命

マイクロファイナンスと多様なパートナーとの共創によって生まれる「一歩を踏み出す機会」を、人々に提供していきます

VISION 組織が目指すゴール

誰もがいきいきと社会で活躍し、持続する社会

VALUE 団体の価値観

チャンスを願い、一歩を踏出そうと思う人々の伴走者であること

グラミン日本のあゆみ

9月 グラミン日本設立。
事業を開始

1月 第1回 SDGs
コンソーシアムを開催

2月 第2回 SDGs
コンソーシアムを開催

9月 ボランティアサポーター
募集説明会を開催

4月 新型コロナウイルス感染防止の
ため、対面でのイベント・ミーティ
ング等をオンライン化

11月 みんな電力株式会社との協業に
より、グラミン日本から融資を受け
ている方の自立を支援する電力
プラン「グラミンでんき」サービス
を開始

2月 シングルマザーのデジタル人材化支援事業
を開始

3月 米国コカコーラ・ファンデーションによる、
シングルマザー就労支援のための
15 万ドルの寄付を受諾

4月 デジタルスキルに特化したシングルマザー
就労支援プログラムを、ランサーズ、日本シ
ングルマザー支援協会との協業で開始

私たちが目指す社会

- ✓ 貧困・生活困窮に陥った時、そこから脱却する助けがセーフティネット・ソフトインフラとして整備されている社会
- ✓ 生業的な起業（プチ起業・小商い）が普通にできる社会
- ✓ Job Seeker（仕事を探す人）より、Job Creator（仕事を創造する人）が活躍できる社会
- ✓ 地域・コミュニティがお互いに助け合い、共感のある社会
- ✓ ユヌス・ソーシャルビジネス7原則が実践される社会
- ✓ 会社が、株主だけでなく経営者、社員、取引先、顧客、地域・コミュニティなど全ステークホルダーに貢献する社会

ユヌス・ソーシャルビジネス7原則

01 利益の最大化ではなく、社会問題の解決こそが目的であること

02 財務的に持続可能であること

03 投資家は投資額を回収するが、それ以上の配当は分配されないこと

04 投資額以上の利益は、ソーシャルビジネスの拡大や改善のために使うこと

05 環境へ配慮すること

06 スタッフは標準以上の労働条件・給料を得ること

07 楽しみながら仕事をする



グラミン銀行はムハマド・ユヌス博士により、1983 年にバングラデシュで設立されました。貧困層を対象に 5 人一組の互助グループを形成し、低利・無担保で融資するマイクロファイナンス事業を展開。借り手のほとんどは女性で、融資金を元手にスモールビジネスを起こし、経済的自立を目指します。2006 年、ユヌス博士とグラミン銀行は、貧困削減に寄与した功績によってノーベル平和賞を受賞しました。

5月 休眠預金を活用したシングルマザー向けの自立支援事業「キャッシュフォーワーク」をランサーズ、日本シングルマザー支援協会と共に開始

8月 SAP ジャパン、MAIA と共に「でじたる女子」プログラムの提供を開始

10月 生活困窮者の自立を支援する「グラミンでんき」、法人需要家向けにサービスを拡大

1月 団体設立以来初めてとなるリブランディングを実施

2月 休眠預金等活用法に基づく資金分配団体に初めて採択される

4月 公式ウェブサイトをリニューアル

4月 KAKEAI と共に生活困窮者支援のために ICT を活用した取り組みを開始

6月 愛媛県と「でじたる女子活躍推進コンソーシアム」連携協定を締結

8月 仙台支部を新設

9月 鹿児島市と「でじたる女子活躍推進コンソーシアム」連携協定を締結

9月 第2期「でじたる女子」プログラムを開始

9月 法人向けサービスサイトを開設

2018・2019

2020

2021

2022

自治体との連携を促進

「でじたる女子活躍推進」に関する連携協定を締結

グラミン日本は、株式会社 MAIA、SAP ジャパン株式会社の 2 社とデジタル技術を活用できる女性人材の募集から育成・教育および就労支援を一貫して行う連携組織「でじたる女子活躍推進コンソーシアム」を発足。

自治体との連携により、女性のスキル獲得と就労機会の創出、また地方におけるデジタル人材育成の課題に取り組んでいます。

でじたる女子活躍推進コンソーシアム

GRAMEEN
NIPPON



MAIA CO.,LTD.
Co-create the future

SAP



企業



自治体

愛媛でじたる女子プロジェクトに関する 連携協定締結式 (2022年6月1日)

デジタル技術習得と多様な働き方の促進により、愛媛県内の女性の自立と活躍を目的として連携協定を締結しました。本連携はグラミン日本が展開する「企業・団体・自治体など多様なパートナーと一緒に、未来のために一歩を踏み出したい方々に対して提供する就労支援プログラム」の自治体連携事例の第 1 弾となります。



愛媛でじたる女子プログラムに関する連携協定締結式

かごしまデジタル女子プロジェクトに関する 連携協定締結式 (2022年9月28日)

鹿児島市との連携協定を締結。「かごしまデジタル女性（おごじょ）プロジェクト」として人材育成と就労支援をスタートいたしました。

グラミン日本は、今後も日本各地の自治体との連携を通じて、地方在住の女性の育成と就労支援をさらに強化してまいります。



かごしまデジタル女子プログラムに関する連携協定締結式

資金分配団体として活動スタート

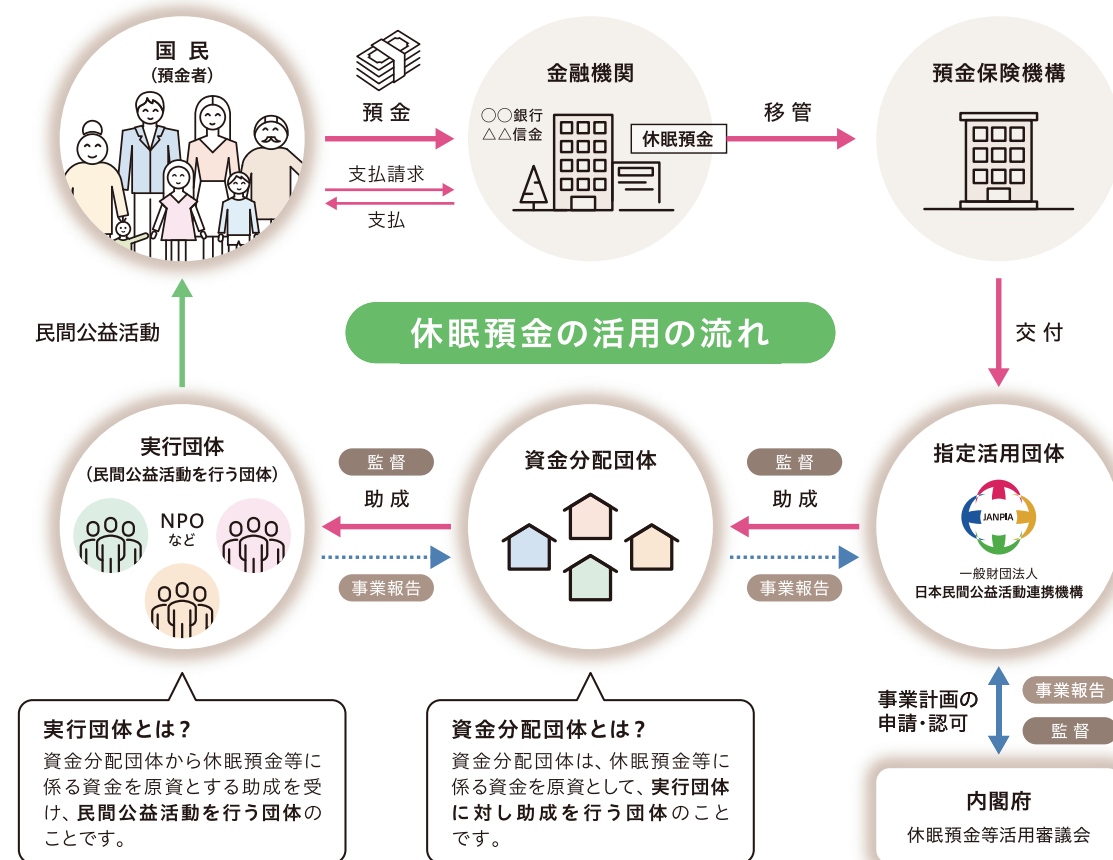
休眠預金等活用法に基づく資金分配団体として グラミン日本が初めて採択されました

2022 年 2 月 15 日、グラミン日本は一般社団法人日本シングルマザー支援協会とのコンソーシアムにて休眠預金等活用法に基づく資金分配団体として、「シングルマザーのデジタル就労支援」事業が初めて採択されました。

10 月には、シングルマザーのデジタル就労支援を行う実行団体として応募のあった 9 団体から、有識者による審査委員会による審査を実施し、Animo Plus 株式会社、株式会社 IKEZOE TRUST、NPO 法人シングルマザーズシスターフッド、一般社団法人ハートフルファミリーの 4 団体を実行団体として採択。各実行団体はシングルマザーのデジタル就労支援事業を開始しました。



グラミン日本は日本シングルマザー支援協会とともに採択団体に対して、資金支援に加え、事業運営や組織基盤構築などの非資金的支援も提供し、3 年間で 300 ～ 500 名のシングルマザーの経済的自立を目指します。



休眠預金等活用とは

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」(休眠預金等活用法)に基づき、2009 年 1 月 1 日以降の取り引きから 10 年以上、その後の取り引きのない預金等(休眠預金等)を、社会課題解決や民間公益活動促進のために活用するものです。

支援モデルと実績

グラミン日本だからできる、エンパワーメントがあります。

支援モデル 1 マイクロファイナンス (小口融資)

生活困窮状態や生活困窮リスクがある方々を対象に、低利・無担保で少額の融資を行い、起業や就労による自立を支援します。

グラミン日本のマイクロファイナンスの特徴

【コミュニティ】 一緒にがんばる仲間

未来への想い・働く意欲を持った5人一組の互助グループをつくり、起業や就労に向けた行動を後押しします。1人で進むより、多くの学びと勇気が得られます。

【金融支援】 条件は、働く意欲

満20歳以上、毎月2回のセンターミーティングへの参加が可能なことなど、条件をクリアした方に低金利・無担保、保証人不要の融資を開始します。

【育成】

稼ぐ力を身につける、無料のオンラインワークショップ

自立したいけれど、どこから始めればいいのかわからない。そんな方を対象に、体験型ワークショップ「ミライWorkshop」を月に3～4回開催しています。自分を見つめ、目標を掲げ、就労・起業を目指します。

【センターミーティング】 継続的なフォローアップ

月2回、5人組のグループが顔を合わせるミーティング。グラミン日本のセンターマネージャーとともに、借入金の返済状況や事業の進み具合を確認し、悩みを相談し合い、解決策やアイデアを共有します。

3つのステップで起業を実現するミライWorkShop

STEP 0 / 自身について知る

「人生曲線」や「家計シミュレーション」などのワークを通し、自分自身が大切にしている価値観や信念を知り、将来こうなりたいと思う自分の姿や実現させたいことをクリアにします。

STEP 1 / 起業アイデアを形に

顧客ターゲットの設定や資金計画の設計など、どんな事業にも必要な要素を明確化して、起業アイデアを「実際にインパクトを生み出す事業」の形に変えていきます。

STEP 2 / 開業プランをつくる

開業に向けて必要な手続きの確認や、スケジュール作成を行い、明日にでも動き出せる準備をします。また、互いの事業計画を共有し、夢の実現に向けて支え合う仲間を見つけてグループを形成し、融資に向けた準備を進めます。

事業計画書の作成

支援モデル 2

就労支援プログラム

企業・団体・自治体などの多様なパートナーと一緒に、未来に向けて一步を踏み出した方々へ、さまざまな就労支援プログラムを提供しています。特に力を入れているのが、能力開発機会の提供を通じたキャリアアップ支援です。将来に夢や希望を抱いて生活するためには、安定的な収入が欠かせません。人材ニーズが高く、時間や場所にとられない働き方が可能な分野を中心に、スキル開発とエンプロイアビリティ向上に取り組んでいます。

2022年度は、一般財団法人リープ共創基金のキャッシュフローワーク助成金を活用したシングルマザーの自立支援を行いました。

■ フラワープログラム for RPA

基本的なジョブトレーニングに加えて、継続的な収入につながるスキルの獲得を目指すフラワープログラム。第2期となる2022年度は、RPA（Robotic Process Automation）人材の育成を行いました。学習中の手厚いサポートに加えて終了試験合格者にはリモートワークを紹介するなど、女性たちの自立に確実につなげることを目指しました。

■ でじたる女子

株式会社 MAIA、日本シングルマザー支援協会との連携による、自治体 DX の推進という時代の潮流を捉えたプログラムです。RPA や SAP などの最新デジタルスキル研修を習得し、就労を目指します。IT や社会人としての基本を学ぶ講座や、ミーティングを中心とした伴走支援などを組み合わせることで、デジタルスキルだけではなく、自分の足で力強く歩いていく力が身につきます。自治体との連携については、7 ページのハイライトでもご紹介しています。

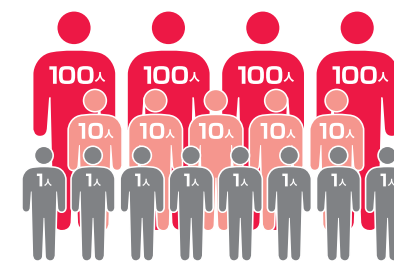
■ ソーシャル・リクルーティング・プラットフォーム

働きたいシングルマザーと、企業や団体の求人ニーズをいかにスピーディーにマッチングさせるか。この課題に応えるために、SAP の外部人材管理ソリューション「SAP Fieldglass®（エスエーピー・フィールドグラス）」を活用したプラットフォームを SAP ジャ

パンが構築し、グラミン日本が運用しています。上記のでじたる女子プログラムなどを組み入れることで、就労に向けたモチベーションやスキルの形成、就労先の開拓、さらには就労後の定着まで、一貫した就労支援を提供します。

支援実績

2022年度の融資実績は、以下になります。



ワークショップ参加人数

458人



ワークショップ開催時間

343時間



マイクロファイナンス
融資実行件数

20件

彼女たちのストーリー

グラミン日本との出会いをきっかけに、
新たな人生を歩き出した方々の声を紹介します。

彼女がデジタル人材を 目指した理由

「めっちゃめちゃ楽しくて、しんどい毎日でした」
そう言って大きな声で笑うのは、4人のお子さんと暮らすシングルマザーの橋本恵さん。

グラミン日本、MAIA、日本シングルマザー支援協会が
タッグを組み、ますます需要が高まるデジタル人材を
育成する「でじたる女子」を修了し、エンジニアへの道
を歩み始めています。

このプログラムの特徴は、IT スキルの研修だけではなく、
起業や就職までをサポートする点で、休眠預金を
活用した助成金を原資にグラミン日本が参加者を雇用
するため、お給料をもらいながらスキルアップに挑戦
できます。

橋本さんがデジタル技術を学ぼうと考えたのは、昼間
の仕事のほかに、リモートでできる仕事を探していた
から。
「東北に引っ越して給与水準の低さに驚き、副業を探し
ましたがほとんどないし、デジタル分野の職業訓練と
いってもパソコンの基礎講座くらい。このままではス



橋本 恵さん

キルアップして収入を増やすのはむずかしいと途方に
暮れました」

そんなとき、ふと目にしたのは「でじたる女子」の募集
案内。3カ月のコース終了後に試験に合格すれば、エ
ンジニアへの扉が開かれます。

「お気軽に参加してくださいって書いてあったので、本
当に気軽に申し込んだじゃいました（笑）」

とにかく明るくて前向きな橋本さんですが、以前は子
どもと自分の将来について悩むことも少なくなかった
と言います。

「子どもにばかりベクトルが向いて、しっかり育てなきゃ
と気負っていました。そのせいで子どもとぶつかるこ
とも多く、毎日のようにバチバチやっていました」

でも今は、自分は何をやりたいか、どう生きるかを真っ
先に考えるようになったそう。そんな姿を見てお子さん
たちも次第に変わっていき、挑戦するお母さんを応援
してくれるようになったと言います。

「スキルはもちろん、学習する習慣がついたことが一番
の成果。だから、これからも勉強を続けてキャリアアッ
プを目指します。シングルマザーでも子どもに何かをあ
きらめさせたくないし、自分もあきらめたくない。その
ためにはどうしても経済力が欠かせません」

お金にも、自分以外の誰かにも振り回されたくない。自
分の足で立って、望んだままの未来を手に入れたいと願
うシングルマザーを、グラミン日本は応援しています。



當山 華奈さん

「もしも自分が病気になったらどうなってしまうだろう
と、ずっと不安でした」

そう振り返るのは、3歳の女の子を育てるシングルマ
ザーの當山華奈さん。「でじたる女子」で SAP テスター
を目指すプログラムを受講し、デジタル人材への道を
歩み始めています。

SAP システムに不具合がないかどうか調査するテス
ターはニーズが高く、在宅ワークが可能な点も、子ど
もとの時間を確保したいシングルマザーにとっては大き
な魅力です。それでも當山さんは、すぐには受講を決
められなかったと言います。

その理由は、3つの大きな不安。

- 普段でも仕事、家事、育児で時間の
余裕がないのに、学習について行ける？
- 受講のために仕事をセーブして収入が減ったら、
生活はどうなる？
- ほぼ未経験でも本当にできる？

これはスキルアップを目指す多くのシングルマザーが直
面する問題かもしれません。そんな不安を解消したの
が、當山さんが参加した「でじたる女子」です。休眠
預金を活用した就労支援プログラムのため、3カ月間
の受講料は全額無料。そのうえ参加者にはグラミン日
本から給与が支払われるので、受講中の生活費を心配
する必要もありません。

「パソコンは文字入力くらい」と、全くの基礎から始め
た當山さんですが、「1つ理解できるとどんどん楽しく

デジタルスキルで 「将来の不安に克つ」

なっていました。ただ、コロナ禍で保育園が休園に
なって元気すぎる娘につきあう日が続いたときは、さす
がに学習への焦りと不安でおかしくなりそうでした」
そんなときに支えになったのが、グラミン日本独自の5
人一組グループの仲間たちです。なかなか人には言え
ない個人的な悩みや夢までをメンバー間で共有するこ
とで、1人ではむずかしいチャレンジも成功させてしま
う不思議な力がグループワークにはあります。

無事に卒業し、現在は SAP テスターとしての就職を目指
す當山さん。

「やり遂げたという自信で、将来への不安が少し和らぎ
ました。仕事と自分の可能性を広げることができて本
当に良かったです」

将来の夢をうかがってみました。

「娘と愛犬と一緒に毎日穏やかに暮らしていきたいで
す。習い事も本人が望めば続けさせてあげたいし、も
う少し大きくなったら一緒に旅行もしてみたい。娘がや
りたいと思ったことをできる限り叶えてあげたいと、心
から思っています」

障害者向けお出かけ 情報サイトを立ち上げ



橋本 恵美さん

「障害があっても、みんなと同じように外出を楽しみたい」そんな当たり前の夢を叶えるために起業して、お出かけ情報サイト「enjoy with」を立ち上げた橋本恵美さん。就職ではなく起業を目指した背景には、障害を持つ息子さんの存在がありました。「学校や放課後のデイサービスなどの利用には私の見送りや出迎えが不可欠なため正社員として働くのは難しく、起業を考えるようになりました」

そこで思いついたのが、障害者とその家族に向けて外出情報を発信することでした。「みんなもっと気軽に旅行やレジャーを楽しみたいと思っているはずです。子どもがいろんな出会いや体験をして、いつもと違う表情や成長を垣間見られるのは、親にとってうれしいことですから」

でも、外出先の環境や施設など、障害者やその家族の視点に立った情報は決して多いとは言えない。だったらWebサイトを立ち上げて自ら発信してしまおう。そう、橋本さんは決断します。とは言え、起業のノウハウがあったわけではありません。そんなときに知ったのが、シングルマザー支援協会とグラミン日本が開催するワークショップでした。

「同じ目標を持つ仲間が5人一組になって、講師の方のアドバイスを受けながら起業に向けてアイデアを出しあい、切磋琢磨します。頭の中にぼんやりあったプランが

くっきりと描かれ、一歩ずつ前進している手応えが感じられました」

サイトの運営に不可欠なデジタルマーケティングを学ぶため、グラミン日本のマイクロファイナンスを利用して新しいパソコンを購入。デジタルマーケティングの仕事で収入を得るまでになりました。そして、起業の夢はエンジェル投資家の登場によって実現します。

「私の事業プランを評価して、出資してくださる方がいる。そのことに私自身が一番驚いています」

橋本さんの最終目標は、「私がいなくなった後でも、息子が豊かな人生を生きていけるようにすること」だと言います。

「人は誰でも余暇を充実させることで、日々の仕事や生活を頑張れます。息子にも余暇を充実させて、生き生きとした人生を歩んでもらいたい。そのために私は、一生をかけて活動してくつもりです」



障害者とその家族のためのお出かけサイト「enjoy with」
<https://enjoywith.net/>



塚越 恭子さん

デザインの力で 起業家を増やしたい

グラフィックデザインを軸に、ウェブサイト制作も手がけるフリーランスデザイナーの塚越恭子さん。

ある NPO 法人の紹介をきっかけにグラミン日本に出合った当初は、ちょっとのぞいてみようかな、というくらいの軽い気持ちだったそうです。でも、いざワークショップに参加してみると、その一番の特色でもある「5人一組」のシステムに魅力を感じたそうです。

「5人の参加者でグループを組み、お互いに支えあったり刺激しあったり。これまではシングルマザーという立場だけで、理解や共感してもらえない状況が多く、寂しい気持ちを感じることも多かったのですが、同じ環境にいる仲間と励ましあいながら進んでいける仕組みにとっても魅力を感じました」

ミーティングはすべてオンライン開催でしたが、画面越しでも定期的に顔をあわせることで、回を増すごとにお互いの信頼感が増し、仕事や子育ての悩みも相談できるようになっていったと言います。

「起業に際してのペルソナ設定や収益予測についても、5人で対話する過程を通じて思考を深めていきました。お互いの事業プランや目標を共有したり、突っ込んで質問しあうことで、時には自分の考えが甘いと気づかされて落ち込むこともありました。でも、みんながいて応援してくれる環境があったからこそ励まされ、起業にこぎつけることができました」

グラミン日本のマイクロファイナンスを利用して、個人事業主などを対象に名刺やロゴ、ウェブサイトのデザインなどを請け負うサービス「ツカエルデザイン」を立ち上げた塚越さん。これまで自分自身が家事、育児、仕事のワンオペで大変な思いをしてきたからこそ、女性の持続可能な働き方を真剣に考えています。

「これからも自分が提供できるデザインの価値を通じて、シングルマザーなどが、子どもの面倒も見ながら在宅で働ける環境づくりをお手伝いできたらと思っています。そして、いずれは自分自身の経験も共有させていただきながら、グラミン日本が行っているようなプチ起業家を増やすことに貢献したり、支援できる立場になるのが目標です」



ツカエルデザイン
<https://tsukaldesign.hp.peraichi.com/top>

SDGsアクションを、私たちとともに



グラミン日本は「日本の貧困」という社会課題に取り組んでいます。
貧困の連鎖を断ち切り、持続可能な社会を子どもたちに引き継ぎます。

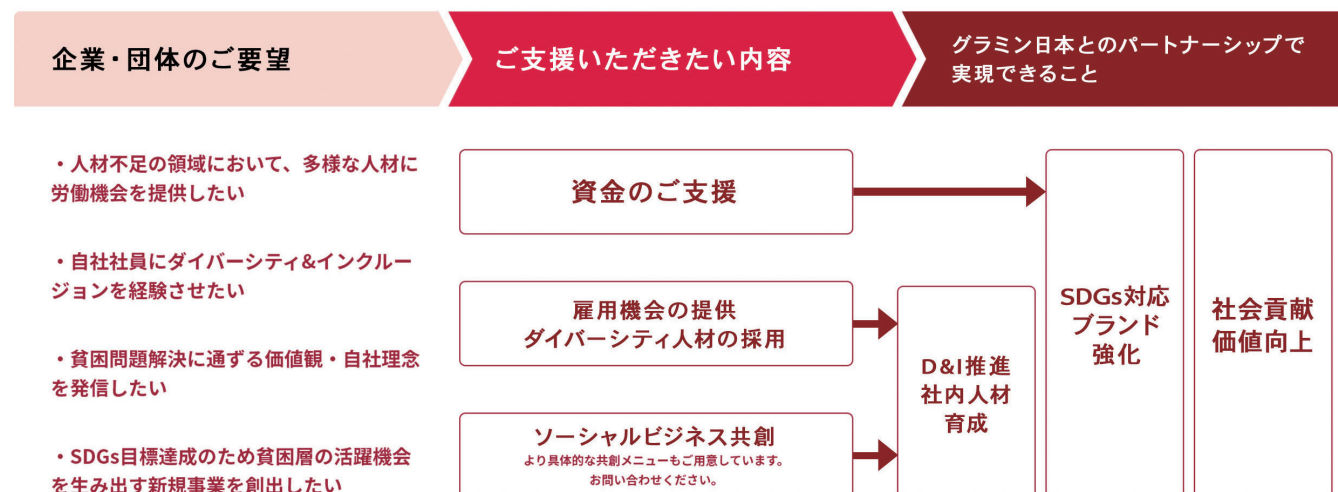


グラミン日本では「資金のご支援」「雇用機会の提供」
「ソーシャルビジネス共創」、3つのかたちで企業の
みなさまとの連携を進め、女性の経済的自立を目指しています。

資金のご支援: 賛助会員としての会費、ご寄付をいただき、グラミン日本の活動に協力いただくパートナーシップです。

雇用機会の提供: グラミン日本が支援する多様な人材に、労働機会をご提供いただくパートナーシップです。

ソーシャルビジネス共創: グラミン日本と連携し、ビジネスによる社会課題解決を目指すパートナーシップです。



パートナーとの共創事例

雇用機会の提供

一時的な支援ではなく、「自ら稼ぐ力をつける」ための支援が、女性の経済的自立には不可欠です。そのためにグラミン日本は、エンプロイアビリティ（雇用される能力）の向上を図っています。そして、パートナー企業のみならず、求められるスキルを獲得した女性たちに雇用機会をご提供いただいています。
10 ページで紹介している「でじたる女子」プロジェクトでは、RPA 開発、SAP テスト、デジタルマーケティングなど、ニーズが高まるデジタルスキルを修得した女性たちと、人材不足を課題とする企業とのマッチングを実現しています。みなさまの雇用ニーズをお聞かせください。ダイバーシティ経営実現に向けて、多様な人材をご紹介します。

ソーシャルビジネス共創 株式会社UPDATER

あらゆるモノの「顔の見える化」で社会のアップデートを目指す株式会社 UPDATER 様と、グラミン日本は、2021 年 9 月より共同プロジェクト「グラミンでんき」を展開しています。
「グラミンでんき」の契約者が支払う電気料金のうち毎月 100 円を、グラミン日本に寄付いただきます。
また、グラミン日本が支援するメンバーが、UPDATER が提供する「みんな電力」を契約した場合、1 年間の電気料金を同社にご負担いただきます。これにより女性たちは、電気代の心配をせずに、経済的自立に向けたチャレンジに取り組むことができます。



資金やリソースをご提供いただいている企業・団体（順不同）

アクセンチュア株式会社
株式会社UPDATER
SAPジャパン株式会社
エヌエヌ生命保険株式会社
The Coca-Cola Foundation
一般社団法人日本民間公益活動連携機構

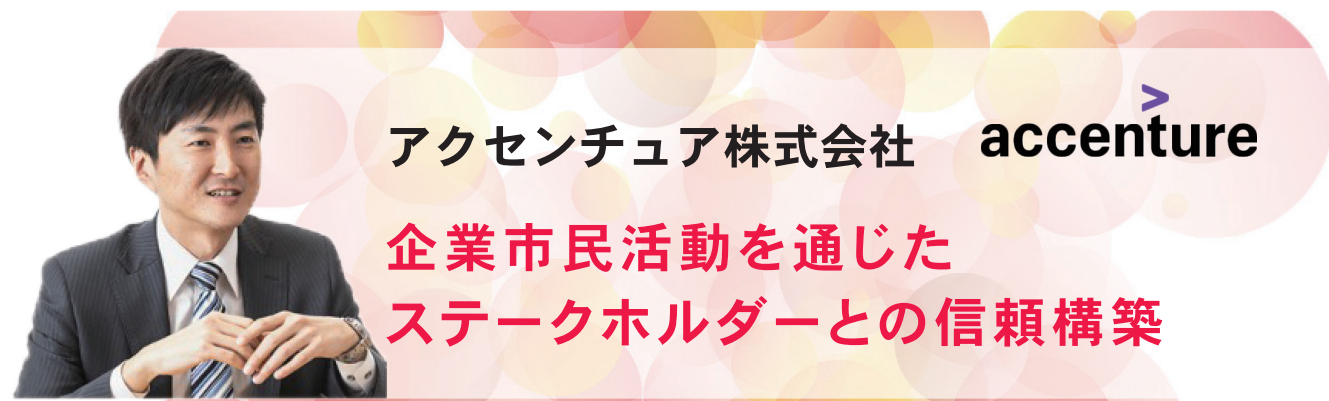
ブラックストーン・グループ・ジャパン株式会社
三井不動産株式会社
医療法人社団咲優会
株式会社セプテーニ・ホールディングス
グリーン・テクノロジー株式会社

ともに日本の貧困問題に取り組むパートナーを募っています。
グラミン日本をご支援ください。

お問い合わせはこちら



私たちの活動は、多くのパートナーに支えられています。社会課題の解決を目指す多くの企業・団体が自らの事業や強みを基盤として、シングルマザーの自立というグラミン日本と同じ目標に向かって行動しています。



公共サービス医療健康本部 大寺伸さん

自社の強みや競争優位に依拠した活動で、社会貢献を越えた経済価値を実現する。日本でも浸透しつつあるこうした考え方を象徴する事例が、アクセントゥアの取り組みです。グラミン日本をはじめとするさまざまな非営利組織との連携により、意欲の高い人材やステークホルダーからの信頼獲得につながっています。

アクセントゥアが解決したい社会課題は何ですか。

アクセントゥア（以下略）：我々は、Corporate Citizenship（企業市民活動）として、非営利団体やソーシャル・ベンチャーとのパートナーシップを通じた社会課題の解決にグローバルで取り組んでいます。コンサルティング企業としての強みが活きるよう、活動テーマは世界共通で "Skills to Succeed"（スキルによる発展）としています。

日本では、少子高齢化が進むなかで国際競争力を保ちながら、日本経済の持続的発展につなげていくことを目指し、人材・スキル課題の解決に取り組んでいます。グラミン日本への支援は、経済的に困難な状況にある方々を自立に導くことで社会の持続可能性を高め、ダイバーシティの向上により経済的にも競争力を高めることを目指した取り組みの一つとして実施しています。

具体的な支援内容をご紹介ください。

「ミライ WorkShop」の企画やコンテンツづくり、プログラムへの認知を高めるためのマーケティング

施策の立案などです。また、融資事業を支えるセンターマネージャー育成プログラムの体系化と、教育コンテンツづくりも行いました。

グラミン日本との共創により、どのような効果が生まれていますか。

活動を通して社会課題の解決に高い関心を持つ社員に機会を提供することができ、自社に対する愛着心や信頼感を高めるきっかけにもなっています。

これから社会課題の解決に取り組もうとする企業へメッセージをお願いします。

アクセントゥアでは、「テクノロジーと人間の創意工夫で、まだ見ぬ未来を実現する」というパーパスを掲げていますが、とりわけサスティナビリティは人類にとって最大かつ喫緊の課題であり、これに取り組むことは我々の存在意義の表れの一つといえます。同時にサスティナビリティは、「次のデジタル」ともいえるビジネス機会としての側面を持ち合わせています。今後この領域においてクライアントの要請に応じて価値を創出し、世界をけん引する存在になるためには、企業市民として課題解決に関する知見を社会と共有し、信頼を構築するとともに、リーダーシップを認められる存在になる必要があると考えています。

このように企業には今日、単に慈善事業としてではなく、社会課題解決をビジネスそのものとして取り組んでいくことが求められているのだと思います。

株式会社UPDATER UPDATER, INC.

できることから
「すぐに」「小さく」始める



代表取締役社長 大石英司さん

誰でも気軽に社会貢献できる仕組みとして注目を集める「グラミンでんき」。毎月の電気料金から 100 円をグラミン日本に寄付するというシンプルかつ効率的なスキームは、大企業とは一線を画するリーンの手法によって生まれました。自然体で経済価値と社会価値の両方を同時に追う UPDATER の創業者、大石英司社長にお話を聞きました。

まず、事業についてお聞きします。なぜ新電力事業への参入を決めたのですか。

大石（以下略）：かつて電気は電力会社だけが作れるものでした。しかし、今ならソーラーパネルなどで誰もが電気をつくり、富を生み出すことができます。さらにそれが再生可能エネルギーならば世の中に安全でクリーンな電気を増やせるし、買う側は数ある選択肢のなかから、自分が好きな電気を選ぶことができます。そう思いついたとき、なんてイノベティブなんだろうとワクワクしました。これが当社の社会課題解決の原点である、みんなで電気をつくって好きな電気を選ぶ「みんな電力」の誕生のきっかけです。

「グラミンでんき」のスキームはどのようにして思いついたのですか。

グラミン銀行創設者のムハマド・ユヌス博士のように、ビジネスで貧困問題を解決したいとずっと考えていました。再エネ電気を売る事業者として、どうすればシングルマザーの経済的自立を応援できるかを考え抜いて生まれたのが、電気代の一部を支援に回す「グラミンでんき」でした。当社にもともとあった、故郷の川の発電所や被災地の太陽光発電所など

を自分で選んで、電気代から応援金を送る仕組みを応用したものです。新たな仕組みをゼロからつくるのではなく、今ある仕組みを活用してすぐに始めることにこだわりました。

今後、取り組みたいことを教えてください。

創業時の電力・エネルギー業界をアップデートする立場から、社会全体をアップデートする立場へと当社は進化しています。自社のブロックチェーンテクノロジーを使って、電気のみならず、空気、土、衣食住など、さまざまな領域における顔の見える化を進めているところです。購入金額の一部がカカオを生産するガーナの村に行く「タドれるチョコレート」はその一例です。どこにいくら払われているのか見えない状況を可視化させ、本当に必要な人にお金が行き渡る世界を目指しています。なかなか現場に行き届かない支援から脱却して、顔が見えるかたちで届ける支援を、グラミン日本と一緒にさらに加速させていきたいと思っています。

グラミン日本との連携を検討している企業に、一言をお願いします。

大企業の発想では、SDGs や ESG 関連の発信も「やってます」感をアピールするのに終始しがちなのではないのでしょうか。当社の場合は、小さくてもすぐに実行できるかたちでスタートできた点がよかったと思います。社会課題に取り組み、それを発信したいと考えている企業の方々はあまり構えず、まずはできることから小さく始めたらいいのではないのでしょうか。



事業開発部 片山あゆ美さん

エヌエヌ生命保険株式会社

起業家精神とイノベーションを ドライブする



エヌエヌ生命は、経営者向けに事業保険を提供する生命保険会社です。日本経済の原動力である中小企業を支える一方で、未来を見据え、経営者にとことん寄り添ったユニークな支援活動も積極的に展開しています。

エヌエヌ生命が解決したいと考える社会課題は何ですか。

エヌエヌ生命（以下略）：当社は1986年にヨーロッパの保険会社として初めて日本に進出し、2015年に現在の「エヌエヌ生命」となりました。エヌエヌ生命としてのリブランディングにあたり、真の「中小企業サポーター」を目指して、日本の中小企業をとりまく課題にフォーカスし、後継者や若手経営者といった「次世代の支援」をテーマにしたCSRおよびCSVの活動を行っています。

現在は、どのような支援活動を展開されているのでしょうか。

2017年から、NPO法人の「ETIC.」さん、「農家のこせがれネットワーク」さんと一緒に「家業イノベーション・ラボ」を展開しています。家業を承継した経営者の方やこれから承継する方に向けて、イノベーションの実現をサポートするプログラムやセミナー、ワークショップを提供するものです。

経営を次世代へ引き継ぐ際には、先代のビジネスモデルが賞味期限切れになっていることが多く、後継者の方々がどのようにリーダーシップを発揮して、時代に合ったビジネスモデルに変えられるかが大きな課題となります。「家業イノベーション・ラボ」は、家業の伝統を守りつつも、自分らしいイノベーションを実現させようとチャレンジする方の背中を

押す場です。

グラミン日本を支援していただくようになったきっかけを教えてください。

当社の親会社であるNNグループでは、社員のボランティア活動への参加や、チャリティー団体への寄付などを積極的に行う方針を掲げています。その一つに、社員が気軽に参加できるイベントとしてチャリティーラン&ウォークがあり、定期的に開催してきました。2021年の冬からは、社員が走ったり歩いたりした距離を寄付金に換算して、グラミン日本に寄贈する取り組みを始めました。

数ある社会貢献団体のなかから、なぜ私たちが選ばれたのでしょうか。

アントレプレナーシップを大事にしている点が、NNグループと共通していたからです。シングルマザーが始めたマイクロビジネスが育てば、やがて雇用を生み出し、日本を支える中小企業へと成長していきます。グラミン日本と当社が大事にする価値観や目指す方向には、共通している部分がたくさんあります。

エヌエヌ生命が持つ新規事業開発や中小企業経営のノウハウは、起業を目指すシングルマザーにとってとても貴重です。ぜひ今後も多面的な連携をお願いします。

はい。今後は資金だけでなく、女性のアントレプレナーシップ向上のお手伝いもしていきたいと思います。グラミン日本の支援を受けて起業を目指す女性に対して、当社の社員が直接的にアイデアの壁打ちなどのご支援を提供したいと考えています。

クリーン・テクノロジー株式会社

「5人一組」が持つ可能性に着目



代表取締役 淡路敏夫さん

排ガス処理装置の製造などを通じて、半導体製造現場における環境保全に取り組むクリーン・テクノロジー。淡路敏夫・代表取締役と人材開発チームの原田康太さんに、グラミン日本との出会いとパートナーシップについてうかがいました。

クリーン・テクノロジーが解決したい社会課題について教えてください。

クリーン・テクノロジー（以下略）：当社は半導体産業の環境保全に取り組むテクノロジー企業です。排ガス処理装置や水質汚染防止装置を通じて、空気や水を安全かつ持続的にきれいにしていくことが私たちにとっての社会貢献であり、事業の根幹でもあります。

グラミン日本との出会いは。

グラミン銀行独自の支援モデル「5人一組の互助グループ」を知る機会があり、置かれた環境や仕事は違っても、同じ未来を共有するメンバーが互いに励ましあい、高めあいながら進んでいく仕組みに感銘を受けました。自社の人材育成にも取り入れたいと考えて、グラミン日本の百野理事長に新人研修の講師を依頼したのが縁で賛助会員になり、資金援助をさせていただいています。

「5人一組」をどのように人材育成に活用されているのでしょうか。

当社では、新しい価値観の発信や、組織の垣根を越えて仕事を進めることを社員に推奨し、組織としても推進しています。そこで取り入れたのが、多様なメンバーがそれぞれの違いを見つけ、認めあい、活かしながら、各自が持つ可能性を最大限に引き出すことができる「5人一組の互助グループ」です。現在は、自社

の組織マネジメントにどのように取り入れ、独自の手法にしていくか試行錯誤しているところです。

資金支援をいただきながら、グラミン日本の仕組みやメソッドを自社の経営に活用していただくのは私たちにとっても新しい連携のかたちで、大きな可能性を感じます。企業と社会貢献団体は対極にあるように見えて、実は共通点やお互いに参考になる点がたくさんあるように思います。

まさに違いが可能性を最大化する好事例と言えるのではないのでしょうか。当社の場合、長期間の地方勤務に消極的な社員が多いという課題がありました。そこで地方にシェアハウスをつくり、週単位の長期出張をローテーションで回すようにしました。滞在しながら現地のお客様の仕事のやり方や習慣の違いを体験することで、多様な物の見方や許容力が身につき、社員の成長につながっています。違いを違いと捉えればルールや慣習に合わない「欠点」となるものも、違いを許容すれば「新しい何かが生まれる起点」になります。

創業者としてクリーン・テクノロジーをここまで育てた淡路さんから、起業を目指すシングルマザーやそれを支援する企業の方々にメッセージをお願いします。

シングルマザーは経済的にも社会的にも弱い立場にあるとされますが、本当にそうでしょうか。自らが持つ個性を武器に変えてしまえば、また別の可能性が見えてきます。従来のやり方が通用しなかったり知識が足りない環境で、もがき苦しみながら生み出した独自のやり方はきっと強いはず。社会や企業の中のルールや慣習と合わない部分があるなら、自分たちが変わり、個性を武器にする発想が大切です。経営者や企業にとっても、そうしたしなやかで強かな姿勢は力になるはず。

貸借対照表			
2022年9月30日現在			
(単位:円、税抜)			
科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	16,058,434	14,252,588	1,805,846
未収入金	152,720	92,694	60,026
売掛金	160,899	-	160,899
前払費用	328,160	381,719	-53,559
短期貸付金	3,083,706	1,414,573	1,669,133
貸倒引当金繰入	-168,158	-168,158	-
流動資産合計	19,615,761	15,973,416	3,642,345
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
助成金	46,267,614	18,415,918	27,851,696
特定資産合計	46,267,614	18,415,918	27,851,696
(2) その他の固定資産			
一括償却資産	-	-	-
敷金	1,200,000	1,439,272	-239,272
長期前払費用	18,472	23,601	-5,129
その他固定資産合計	1,218,472	1,462,873	-244,401
固定資産合計	47,486,086	19,878,791	27,607,295
資産合計	67,101,847	35,852,207	31,249,640
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	277,970	400,000	-122,030
未払費用	1,025,338	869,870	155,468
未払給与	1,908,665	-	1,908,665
未払消費税等	29,400	-	29,400
未払法人税等	70,000	70,000	-
前受金	-	-	-
預り金	436,973	336,107	100,866
流動負債合計	3,748,346	1,675,977	2,072,369
負債合計	3,748,346	1,675,977	2,072,369
III. 正味財産の部			
1. 基金	16,020,000	16,020,000	-
2. 指定正味財産	46,267,614	18,415,918	27,851,696
(うち特定資産への充当額)	-30,463,304	-11,995,223	-18,468,081
3. 一般正味財産	1,065,887	-259,688	1,325,575
正味財産合計	63,353,501	34,176,230	29,177,271
負債及び正味財産合計	67,101,847	35,852,207	31,249,640

正味財産変動計算書			
2021年10月1日から2022年9月30日まで			
(単位:円、税抜)			
科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	37,437,763	20,415,000	17,022,763
受取会費	2,972,000	4,624,000	-1,652,000
事業収益	500,632	135,420	365,212
受取寄付金	3,501,665	3,681,847	-180,182
受取補助金等	30,463,304	11,973,576	18,489,728
雑収益	162	157	5
(2) 経常費用	34,534,673	21,717,509	12,817,164
事業費用	5,920,278	8,849,179	-2,928,901
管理費用	28,614,395	12,868,330	15,746,065
当期経常増減額	2,903,090	-1,302,509	4,205,599
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	9,689	2,581	7,108
(2) 経常外費用	1,587,204	-	1,587,204
当期経常外増減額	-1,577,515	2,581	-1,580,096
当期一般正味財産増減額	1,325,575	-1,299,928	2,625,503
一般正味財産期首残高	-259,688	1,040,240	-1,299,928
一般正味財産期末残高	1,065,887	-259,688	1,325,575
II. 指定正味財産増減の部			
受取助成金	58,315,000	28,411,141	29,903,859
一般正味財産への振替額(助成金等)	-30,463,304	-11,995,223	-18,468,081
当期指定正味財産増減額	27,851,696	16,415,918	11,435,778
指定正味財産期首残高	18,415,918	2,000,000	16,415,918
指定正味財産期末残高	46,267,614	18,415,918	27,851,696
III. 基金増減の部			
基金期首残高	16,020,000	16,020,000	-
基金受入額	-	-	-
基金期末残高	16,020,000	16,020,000	-
IV. 正味財産期末残高	63,353,501	34,176,230	29,177,271

団 体 名 一般社団法人 グラミン日本
所 在 地 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-7 東信室町ビル4階
電 話 番 号 03-3516-2890
登 録 番 号 東京都知事(T2)第31700号 日本貸金業協会会員 第006047号
H P https://grameen.jp/

名 誉 会 長	ムハマド・ユヌス博士	顧 問	岩 下 千 草
創 設 者	菅 正 広		宇佐美 潤祐
理事長・CEO	百野 公裕		太 田 智
理事・COO	中川 理恵		金 辰泰
理 事	シェーファー・平ダーヴィッド		児玉 都
	白瀧 征人		新田 信行
	高橋 歌織		根本 剛史
	小林 立明		羽生田 慶介
	近藤 康裕		東出 忠昌
	大倉 然		三上 幸司
監 事	木村 道哉		望月 利昭
	兒玉 久実		

(五十音順、敬称略)

【 アドバイザリーボード 】

青 井 浩 株式会社丸井グループ 代表取締役社長
入江 のぶこ 東京都議会議員
内田 士郎 SAPジャパン株式会社 代表取締役会長
江成 道子 一般社団法人日本シングルマザー支援協会 代表理事

大石 英司 株式会社UPDATER 代表取締役社長
大我 猛 boost. technologies株式会社 取締役COO

小原 壮太郎 一般社団法人the Organic代表理事
影山 泰仁 ケイジーコンサルティング株式会社 代表取締役

加藤 智康 三井不動産株式会社 常務執行役員
神永 晋 住友精密工業株式会社 元代表取締役社長
橋田 大輔 ブラックストーン・グループ・ジャパン株式会社 代表取締役

塩田 真弓 株式会社テレビ東京報道キャスター・記者
島田 圭子 ラッセル・レイノルズ・アソシエイツ・ジャパン・インク マネージング・ディレクター

鈴木 敦子 NPO法人ETIC. Co-Founder／シニアコーディネーター
月田 有香 株式会社MAIA 代表取締役
中内 綾 一般社団法人アフリカ協会 理事
中村 誠司 Team Energy株式会社 代表取締役
丹羽 恵久 ポストン・コンサルティング・グループ Managing Director & Partner
原 丈人 アライアンス・フォーラム代表理事、デフタパートナーズグループ会長
平野啓一郎 芥川賞作家
藤沢 久美 シンクタンク・ソフィアバンク代表
藤田 英明 株式会社アニスピホールディングス 代表取締役社長
古村 伸宏 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会 理事長

M I N M I シンガーソングライター
安井 正樹 PwCコンサルティング合同会社パートナー、一般財団法人PwC財団 代表理事
安田クリスティーナ 国際NGO InternetBar.org ディレクター

(五十音順、敬称略)

グラミン日本の活動は、
みなさまのご支援に支えられています。

ご寄付はこちらから

外部寄付サイト・コングラントよりご寄付いただけます。

マンスリーサポーター
(毎月のご寄付)



今回のご寄付



コングラントのご利用が
難しい法人様は、
こちらからお問い合わせください。



GRAMEEN
NIPPON



公式サイト



法人向けサイト

一般社団法人グラミン日本
〒103-0022
東京都中央区日本橋室町一丁目8番7号
東信室町ビル4F
TEL 03-3516-2890